

令和五年元旦

これからの中友会に向けて

中友会会長 草野一紀

皆様、あけましておめでとうございます。青空が広がる穏やかな元旦を迎えました。昨年中はたいへんお世話になりました。皆様のご支援のおかげで、コロナ禍の中ではありませんでしたが、懸案だった合祀慰霊祭も予定通り実施でき、会員の皆様も参加しての総会を講演会（研修会）と一緒に行うことができました。ただ、コロナを意識しての開催であり、会員の皆様の誰もが心置きなく参加できるような状況にはありませんでした。それでもあえて挙行することを、私から役員の皆様をお願いしたのは理由があります。それは、2022年が特別の年だと思ったからです。

皆様もご存じのように、明治維新の1872年に学制が公布され、学校教育がはじまりました。それから75年、あの悲惨な戦争が終わり、荒廃した国土の中で教育基本法が制定され、現代まで続いている学校教育がスタートしたのが1947年です。それから75年後が昨年、2022年になります。単なる150年の教育の歴史というだけでなく、教育の大きな改革が75年の周期で行われたことになります。2022年は、教育制度の改革は伴わなくとも、それに匹敵する大きな教育方法の改革が発動した年ともいえます。最初の75年が近代の教育とすれば、次の75年は現代の教育、そして2022年からは次世代の教育、つまり未来の教育と言えるのではないのでしょうか。

そんな節目の年だからこそ、何とか停滞していた行事を再スタートし、本会がこれからの学校とどう関わっていくかを考えるきっかけにしたいと考えました。

昨年の1月発行の会報第117号の巻頭言に、コロナ禍やそれが影響したと考えられる不登校生徒の増加への対応、新学習指導要領に基づく教育課程の実施、そしてGIGAスクール構想を中心とした大きな改革、山積する様々な課題と向き合い苦勞されている学校に、何かお役に立てることを考えたいという思いを述べました。もちろん、本会の本来の目的から逸脱することなく、運営の工夫をしたいということです。コロナの収束が進まない状況で、校長会との交流も未だ進んでいませんが、その準備はできたのではないかと考えています。

会員の皆様からも、そして現役の校長先生方からも魅力的と思える中友会の活動の在り方を、皆様と共に考えていきたいと思えます。皆様からのご意見をお寄せいただければ幸いです。また、少しでもよいので、中友会の運営にご協力いただける方を募ってきたいと思えます。どうか本年もよろしく願いいたします。